

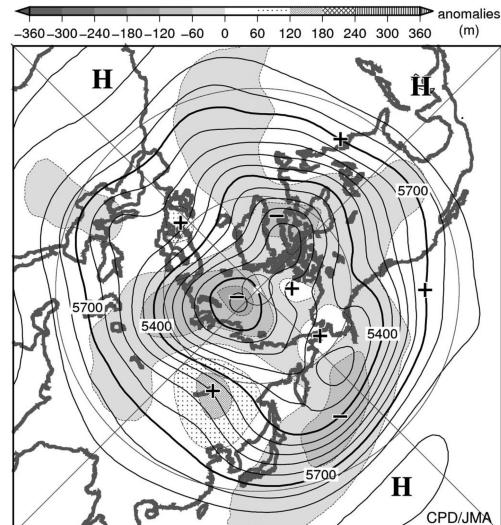
===== 気候情報 =====

2014年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極うずは平年より強かった。ヨーロッパ、モンゴル付近ではリッジ、西シベリア、カナダ中部ではトラフとなった。亜熱帯ジェット気流は、中国東部から太平洋中部付近にかけて平年より強く、日本付近では平年の位置と比べて南偏した。ユーラシア大陸北部では寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。アリューシャン低気圧は平年より強かった。日本付近では低気圧の活動は平年より不活発だった。

熱帶の対流活動は、フィリピンの東海上から太平洋中部にかけてとアフリカ中部で平年より活発、アフリカ東部からインド洋西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインド洋からインドネシア付近、中・下旬に太平洋を東進した。対流圈下層の赤道域ではインド洋から太平洋西部で西風偏差が卓越した。対流圈上層では、東南アジアから日付変更線付近で高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.8だった。



2014年4月の北半球月平均500 hPa高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

世界の天候

2014年4月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となつた。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.73°C/100年（速報値）である。

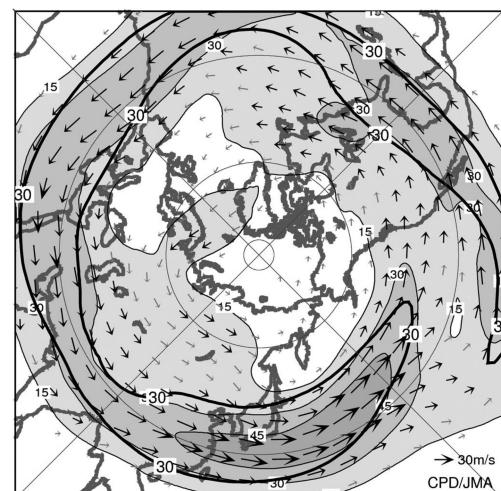
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア北西部～東アジア北部では異常高温となつた。
- アラビア半島西部及びその周辺では異常高温となつた。
- ヨーロッパ西部及びその周辺では異常高温となつた。

(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

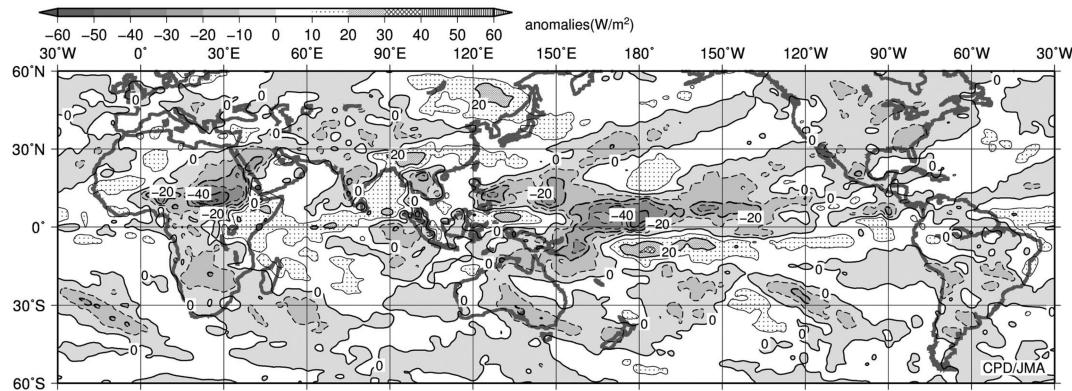
*より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



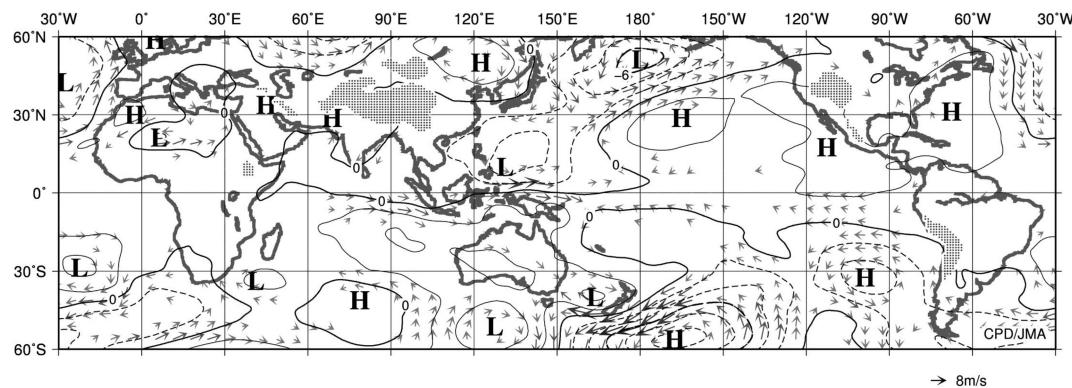
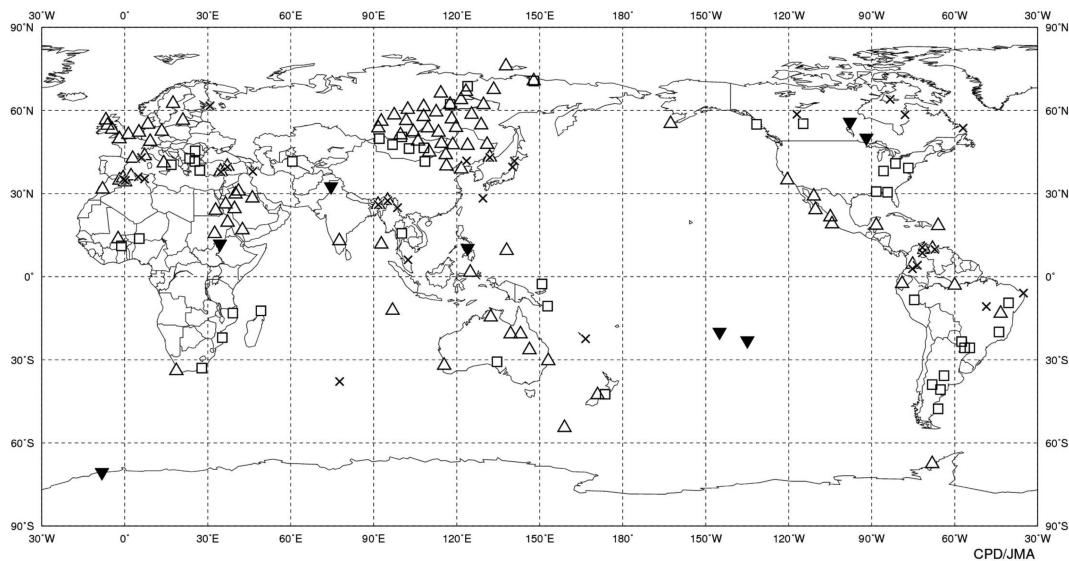
2014年4月の北半球月平均200 hPa風速および風ベクトル

等値線間隔は15 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年4月の月平均外向き長波放射量年平偏差

等値線間隔は $10 \text{ W}/\text{m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁(NOAA)より提供されたデータを用いて作成。年平値は1981~2010年の平均値。

2014年4月の月平均 850 hPa 流線関数年平偏差及び風年平偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年平値は1981~2010年の平均値。2014年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。